1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4092000019		
法人名	医療法人柳川滋恵会		
事業所名	グループホーム春		
所在地	福岡県柳川市西浜武１０８５－１		
自己評価作成日	平成26年1月21日	評価結果確定日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス
所在地	福岡県福岡市博多区元町１－６－１６　TEL:092-589-5680　HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成26年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】(Altキー+enterで改行出来ます)

敷地内には母体の医療機関や介護保険施設があり、第2の我が家としてグループホーム春は8年前に開設しました。居室は障子や畳を配置し、手すりをつけバリアフリーの安全な環境のもと、家庭的な雰囲気の中でいつまでも本人らしい生活が送れるよう又職員は日常生活の介助を通して利用者の安心とゆとりある暮らしを支援出来るよう努力しています。ボランテアのエレクトーン演奏で歌を歌ったり、近隣の保育園の慰問や訪問等で交流を図りながらお互いに共有の心を持ち共に生活する気持ちを大切に続けているホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「グループホーム春」は交通の便が良く、地域に根付いた母体医療機関と系列介護保険施設の隣に位置し、静かな佇まいの明るい洋風の左右対称の2ユニットの事業所である。広い敷地内で安心して散歩を行う事ができ、天気の良い日はすぐ近くの御地蔵様へ毎日の様に散歩が行われ、梅や桜等の花見も行なえる。併設介護老人保健施設の理事長の、施設退所後の第2の我が家となるような思いが込められた事業所で、「ぬくもりのある家で笑顔が絶えず助け合いながら、安全・安心・清潔に生活を送れる事」等を基本理念に掲げている。医療機関や介護老人保健施設と事業所間で相互に協力連携体制が取られており、合同の行事や職員研修等が行われている。職員も明るく、総合的な支援体制の構築により安心して過ごせており、今後も一体的なサービスの益々の発展が期待出来る事業所である。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目:25,26,27）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目:20,40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目:40）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目:38,39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目:51）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目:32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目:30）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目:9,10,21）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目:2,22）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目:4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目:11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況（菜の花）	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でお互いが声掛けあって助け合い安心して暮らすという理念を掲げ、毎朝全職員で唱和し共有して実践している	理念はホールの中央壁に掲げられ、毎朝と午後に唱和している。いつでも意識しながら、ケアに実践しており、さらに1週間の曜日毎の接遇心得も設定し、その場で職員間や管理者が直接指導を行う事もある。	全員で毎日唱和し実践されているが、さらに理念の振り返りを行う事で、見直しや理解を深められる事が望まれる。また、施設開設当初からの理念の為、今後は見直し等も行い、職員全員の思いが込められた理念につながる事にも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は地域の一員としての自覚を持ち地域に関心を寄せ昨年は廃品回収、ボランチア受け入れ、保育園児の慰問、近隣のドライブ等少ない機会ではあるが取り組んできた	系列事業所の運動会等に参加し地域の方との交流もあり、地域の運動会にも見学に行っている。消防訓練には近くのガソリンスタンドの参加等があり、小学校の福祉事業体験も受け入れたり、子供会の廃品回収等支援しており、地域との交流は深められている。	系列事業所運動会等に参加し、地域の方との交流が行われているが、今後は事業所独自の催し物等を開催し、地域の方を招いたり、地域の方との積極的な交流が進められていく事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献まではなかなか進まないがまずは認知症の理解に向けて身近な機会に発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みについて家族からは関心を持って意見を出して頂き又市町村からは現状報告とともにアドバイス等あってサービス向上への取り組みとしている	運営推進会議は定期的に開催され、報告や情報交換が行われている。徘徊ネットワークを教えてもらったことで、市のネットワークに登録出来た事例もあり、活発な意見が交わされていた。、議事録はいつでも閲覧出来る様になっており、開示もされている。	運営会議には市職員、民生員等や各ユニットの家族代表者が参加して、事業所の運営に活かされている。今後はさらに、家族に会議開催の案内等で周知を図り参加を増やし、多方面からの意見が運営に活かされる事に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービス向上への取り組みについての相談は積極的に行い相互に協力していく関係を築いている	介護保険等の手続きには、直接窓口に行っており、相談事なども電話連絡で気軽に出来る。顔なじみの関係づくりがされており、インフルエンザの集団感染時は報告や届出を行う事等の相談やアドバイスも受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者ケアで防止徹底すべきこととして学習を重ねている、緊急やむを得ない場合の扱い方は全職員で慎重に検討している、結果現在日中玄関施錠を行って離設予防をしている	以前に1名の離設された方がおり、現在はやむを得ず玄関の施錠がされているが、それ以外の身体拘束は全くしていない。系列事業所や事業所内でも、定期的な内部研修等が行われ、職員全体の周知や認識も出来ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	防止徹底に努めている、見過ごされる事がないように管理者は全職員に周知徹底を図り注意を払っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況（菜の花）	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の様々な背景があり、制度について全職員が理解するように年間計画で学習の機会を設けている、現在お一人成年後見制度を利用されている	成年後見人制度を利用されている入居者もおり、以前に家族にも説明しパンフレットを配付した事もある。毎年定期的な内部研修会を行っており、相談等がある時は管理者が対応している。	毎年定期的な研修会も行われ、職員も徐々に理解を深めているが、今後も相談者等がある時に、対応や説明がしやすい様に、パンフレット等の準備がなされる事が望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や算定に係る体制の変更に当たっては分かり易い説明を心掛けご理解、同意、協力を賜っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	平素から良好な関係作りに努めています、利用者家族が表出する意見は前向きに検討して反映させています	家族の来訪時に直接意見や要望を聞き取りをする事が多い。年2回家族会を開催する他、各ユニットの家族代表者が運営会議にも出席しており、積極的な話合いが行われ、運営に役立てている。	意見箱は設置されているが意見は入っていない状況で、面会時等に直接、職員等が意見を聞き取りを行い、検討し事業所運営に活かしているが、今後はさらにアンケート等で隠れた意見の抽出を行い、事業所の運営に役立てられる事を期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	平素から意見や提案を表出しやすい環境整備に努めています、集約した意見は早い段階で検討行い運営に反映させています	日頃より、提案や意見は出し易く、職員の提案も多い。申し送りや毎月の定例会等で話し合いを行い、必要とあれば備品の購入もして貰え、浴室の追加の手摺りの設置等も行われており、意見が運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本年の理事長年頭挨拶は皆なが仲良く働きやすい職場つくりでした、各自が健康管理を行い元気で生き生き明るく働く姿は利用者サービスの最たるものです		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	基本的に福祉現場で働く熱意や人柄を重視され採用は平等に実施されている、働く職員についても長期的に自己実現できるように事業所として出来る事を支援している	年齢・性別等の制限無く、職員採用されている。職員の資格取得に向けての休みのシフトも融通出来、管理者よりの研修案内や参加への声掛けで、勤務時間中に行く事も多く、市外の研修受講は交通費の支給もされている。休憩室もあり、休憩時間も確保されていた。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者ケア施設に従事する者として人権学習に取り組んでいるが、H25年度は認知症の人の人権を大切にした具体的なケアを勉強した	柳川市で開催される人権研修を受講し、資料等の回覧や内部への伝達研修も行い、共有化を図っている。全職員の周知も出来ており、毎日のケアの中に生かされている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況（菜の花）	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の力に合わせた研修の機会を確保してステップアップを図っている、介護の実際がトレーニングとなって効果を上げる事の期待感は事業所として大きいので勧めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は少ないが活動への関心を持ち事業所運営の為に情報収集は継続して行いたい		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前は本人に面会し不安がないか話を聞き、安心してサービス利用が出来るような良好な関係作りを初期の段階より築いている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前は不安が大きいので家族の立場に立ち、安心される良好な関係作りに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早い段階で必要とされている支援を判断している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム理念に示す通りともに仲良く暮らす中で助け合い慰め合い支え合っていく関係を大切にしている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切に、家族と同じ立場で考え、ともに本人を支え合う関係を築いている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にされてきた人や場との関係継続が途切れないように、家族に協力して頂き、事業所も支援に努めている	入居者の友人の訪問もあり、ドライブ等へ行った時は自宅近くに寄ったり、外出希望時は家族へ連絡等して外出の支援を行っている。昔住んでいた所へ行きたい、懐かしい食べ物が食べたい等の要望も聞き取り、家族に連絡したり、職員が対応して支援に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況（菜の花）	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴も多く視覚障害もあり利用者同士の会話は乏しいが、それでも同じ家に暮らす利用者同士気ずかいもあり皆さんが仲良くできるように支援している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は家族の不安も大きいので必要に応じて事業所の力や支援を活かしフォローしている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向や希望が困難になって本人本位に検討する事が多くなっているが、本人が表出するサインを見逃さないように努めている	事業所独自のアセスメントシート等を使用し、意向の把握の難しい入居者は、家族に聞き取りを行ったり、毎日の表情や様子等を観察している。情報はミニカンファレンス等で職員間で話し合い、思いの把握に努めて、プランの作成につなげている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	断片的に聞く本人の暮らしと家族から聞き取る暮らし方やサービス利用の経過はサービス支援に役立っている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康管理、社会性、毎日の暮らし振り、本人の力等現状把握に努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と充分に向き合い現状を把握し又必要な関係者と話し合い現状に即した介護計画を作成している	毎日、介護計画表を担当職員がチェックし、詳細がわかるように実施記録を支援経過表に記録している。職員1人が入居者1～2名を担当し、状態変化時や3ヶ月に1回見直しを行なっている。変更がある時は申送りやミニカンファレンスで、全職員に介護計画表を確認をする様に伝達し、共有化を図っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気ずきや工夫は当日のミニカンファで検討し介護計画の見直しを行い実践してモニタリングしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況（菜の花）	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化でニーズも変化するので事業所として出来る必要に応じたサービスに努めている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その人らしい豊かな暮らしを楽しんで頂く為に地域資源との協働で事業所として何が出来るか全職員は前向きに取り組んでいる		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	専門医受診は家族が支援されているが、本人家族が納得されたかかりつけ医については連携を図り事業所が受診支援している	母体医療機関の提携医の往診もあり、24時間対応可能である。以前から利用していた病院を家族送迎で受診されている入居者もおり、必要時は施設職員が同行する事もある。受診結果は家族に聞き取り、職員が個人連絡帳に記入し、全職員に周知を図っており、往診の特記事項は家族の面会時に伝えている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理の気ずきは早期発見早期治療を基本とし、職場内の看護職を通してかかりつけ医に連絡適切に対応されている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は安心して治療出来るように病院側との情報交換や相談に努めている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師は家族へ状態報告と今後の方針について事業者も含めともに話し合い本人家族が望むあり方を共有し関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	医療連携での医師と看護師との協力により、昨年に事業所内で入居者の看取りを経験している。医師からの指示書により、内部での勉強会等を行い、職員全員で家族や入居者を支えて看取りを行なっており、今後も事業所内で職員の勉強会等を継続して、看取りを行なっていく方針である。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置初期対応は繰り返し学習するも職員間にレベルの幅があり実践力のレベルアップを図ることが事業所の課題である		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況（菜の花）	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所の最優先課題に防災対策を掲げ利用者の安全をどう守るか、全職員が身に付けるべく防災対策を学習訓練中である	消防署立会いのもと、家族や近くのガソリンスタンド職員等にも参加してもらい防災訓練を行なっており、系列事業所の勉強会や消防訓練にも職員が参加している。災害時はすぐ対応出来る様に認識する為にも、「入居者○名、外出者○名、外泊者○名、初期消火し、119番は遅出が連絡、通報から6分後に消防到着」等を、毎日声を出して確認し、日頃から災害時に備えている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	子供扱いをしたり、馴れ馴れしい言葉遣い、プライバシーを損ねる等は、その場ですぐ注意し合ってその後問題提起して改善案に努めている	接遇マナーは1週間の曜日毎の接遇心得も設定し、毎日唱和し周知しており、日々の声掛けや、毎日のケアの中で生かされている。接遇マナーの研修会も定期的に開催され、人格を尊重した声掛けや配慮が行われていた。	定期的な研修会も行われ、声掛け等はその場で職員間や管理者からも注意し、人格を尊重した日々の声掛けを取り組まれている。個人情報の保護の方針の同意書は得られているが、今後の入居者の写真の利用等を考慮し、写真の同意書を得られる事が望まれる。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように働き掛けるが様々な事が困難になっておられるので常に本人の行動や表情の変化を		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護の実際は職員側の都合や決まりを優先する現状にはない、一人ひとりのペースで行う事が利用者も職員も一番の方法であると実感している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	オシャレに縁遠くなっておられるのでその人らしさを忘れないように家族と協力しているが、介助しやすい衣服ばかりになっていないかを気を付けていきたい		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やオヤツが一番の楽しみなので職員も力が入るが、食事介助や見守りの方も多くなっていて一緒に準備や後片付けが困難になっている	朝食と御飯と吸い物は事業所で調理しているが、昼と夕食のおかずは、業者から取り寄せており、管理栄養士による栄養バランスの取れた献立で調理され、治療食等への対応も出来る。毎月1日はお赤飯があり、季節の行事食もあり、事業所内でおやつを手作りしたり、変化を付ける等の工夫がされている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスの良い献立を提供しているがご飯ばかりを食べる人おかずばかりを食べる人等本人の食習慣があるが、完食されるように声掛けし食事量や水分量をチェックして健康管理を行っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況（菜の花）	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの準備を行い介助しているが自立されてい人の方がその後の確認を行う必要があり、みなさんの清潔保持を行い感染予防に努めている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿頻度、量、間隔等チェックして失敗やオムツの使用を減らし、夜間オムツの人も日中はトイレ誘導を支援している中で、認知症の進行とともに本人の力が低下している実際があり家族に説明、相談しながらオムツ使用を行っている	排泄チェック表や、水分チェック表を作成し記入しており、職員間で確認し、情報を共有し、声掛け誘導する事で、リハパンツを布パンツ使用に改善出来た方が2名いる。各ユニットに車椅子対応のトイレが2箇所あり、失敗された時も、職員が小さな声掛けで誘導し、他利用者に判らない様に、トイレ内等で着替え等の介助を行い、さり気ない配慮で対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やオヤツの食材に工夫され又レク、体操の運動を日課に取入れているがそれでも便秘傾向の人は医師の指示で座薬や内服でコントロールし健康維持を図っている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しみにされる人、毎回拒否される人がいるのでその人に合わせて支援し清潔保持しているが、頑固に拒否される人は家族が入浴促しの協力のもと入浴実施している	週3回の入浴となっているが、希望で毎日の入浴や、好みの時間にも対応できる。追い炊きシステムで好みの湯温で入浴でき、好みの石鹸やシャンプーも持ち込み可能である。ゆず湯や菖蒲湯や入浴剤も入れて、入浴の楽しみを増やしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠と日中の活動、短時間の休息を取り入れ生活リズムを整えていますが、中途覚醒や不眠の訴えが続く場合は医師に相談している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服管理は職場の看護が行っている、使用する内服の申し送り情報は各自が確認理解し誤薬等がないように留意し又状態に合わせた処方薬は症状の変化を把握し医療機関との連携に努めている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の役割等が次第に無くなっても気持ちの張りや喜びのある暮らしの継続は家族の力が大きいと感じている、事業所が出来る役割は惜しみなく支援して喜んで頂いている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況（菜の花）	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせたドライブ等は数人ずつであるが外出の機会を実施して喜んで頂いている、家族も昼食等の外出に協力されている	天気の良い日は毎日、近くのお地蔵様に、車椅子の方も一緒に散歩も出来ており、不穏状態が強い入居者にはドライブを行なったり、喫茶店でコーヒーを飲んだりして落ちつかれてから事業所に戻っている。2カ月に1回は花見等のドライブを行っており、系列事業所のリフトカーも使用し、車椅子の利用者も全員で出掛けたり、年間計画での外出の支援も行われている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持管理することが困難になられているが、家族からの依頼があってお一人だけお預かりしている、実際使われていない		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	帰宅願望があって家族に電話希望があるので対応している、昨年年賀状の支援を行った		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の大ホールも車イス使用者が多く安全に配慮している、小まめに空調し、トイレは臭気がないように、不快な刺激音は注意して当たり前の事に努めている	各ユニットの玄関内は入居者の笑顔の写真が所狭しと飾られており、事業所内は明るい木目の基調で、広い廊下では車椅子の離合もスムーズに行え、廊下には幅広い手摺が設置され、安全に配慮されている。大ホールや小ホールにはソファ等が設置され、ゆったりとテレビを見たり、大きなガラス越しに園庭を見ながら、日向ぼっこを楽しまれている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人が好む居心地良い（いつもの場所）に誘導すると落ち着いて過ごされ不穏も少ない		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた毛布やアオルケット等をお願いしている、今まで使い慣れたものであっても被害妄想があるので、家族と相談して本人が混乱しない範囲で工夫をしている	各居室に表札があり、スライド式ドアの採光部も四角や長方形等ガラスの切れ込み窓で工夫され、おしゃれな造りである。居室は広く畳の部屋でベットが設置され、窓にはカーテンの代りに障子が設置され明るい。広いクローゼットがあり、好みの物の持ち込みは自由で、馴染みのテーブル、椅子、テレビ、ラジオ、写真や漫画本等が持ち込まれ、入居者の動線を配慮し設置されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スリッパを安全に履く位置に手すり取り付け、大きな鈴をつけ自室をわかるようにする等その人に合った工夫を支援している		